

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員1人1人が利用者の立場になって自分たちで作り上げた基本理念を共有し、新しく入った職員にも、理念をしっかりと伝え実践につなげている。	理念については玄関に掲示し、取り組み姿勢を明確にしている。家族に対しては利用契約時にパンフレットを用い説明し理解頂き、年1回の家族懇談会の資料にも理念を載せホームの取り組みについて話をしている。職員は理念を理解し利用者に優しい気持ちで支援をしている。また、馴れ合いにならないよう立ち止まり、振り返りの時を持ち基本に戻るようになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の場で、地域の役員の方と情報交換し交流できる方法を話し合っている。日常的には散歩の時やスーパーに買い物に行くときと気軽に挨拶してくださる。管理者は地区の他事業所と連携し地区のイベントに参加し協力できる事は無いが、模索している。	日々の散歩では近隣の皆様と気軽に挨拶を交わしている。職員の子供が遊びに来て利用者と楽しく過ごしている。イベントの際には「歌」「楽器演奏」等のボランティアが来訪し利用者も楽しんでいる。近くの中学生の職場体験の来訪もあり、傾聴中心に交流の時を持っている。合わせて専門学校の歯科衛生士の職場実習の受け入れも行った。また、前々区長の「大豆島菊・巴錦」の鉢植えの玄関前展示も引き続き行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の事業所と地域包括支援センターと連携し区ごとに、認知症サポーター講座の開催を計画している。管理者は地域住民向けに認知症の講座を行った。今後も認知症の理解者を増やしていきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、現状・取組・課題などを報告し、参加者の皆さんから質問や意見などをいただき今後活かす努力をしている。	2ヶ月に1回、家族代表、区長、民生児童委員、地域包括支援センター職員、市介護保険課職員、ホーム関係者の出席で併設有料老人ホームと合同で開催している。施設の現状と今後の予定についての報告、意見交換等が行われサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新時の認定調査の時や、運営推進会議の機会に市担当者へ利用者の暮らしぶりを伝えたり、相談にのっていただいたりしている。事業所としてできることがあれば協力したいと考えている。	地域包括支援センターとは連携を取り、地域への働きかけ等協力して行い、様々な事柄について相談している。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し行い、立ち会われる家族もおり調査員と話をされている。市が行う研修会には職員の希望を聞きそれに合わせ参加し、職員ミーティングで報告会を行い内容の共有を図っている。受講料は法人が負担している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所当時から身体拘束をしない事が当たり前と考えている。2か月に1回ミーティング時に身体拘束廃止委員会を行い、何が身体拘束に当たるかなど、振り返りをしている。	ホームの方針として開設以来、拘束のないケアに取り組んでいる。交通量の多い地域でもあり安全確保のため玄関は施錠している。離接傾向のある方が数名、傾向の強い方が若干名おりをホームの周りを散歩したり、外気に当って気分転換を図り対応している。起き上がり時の転倒危惧のある利用者が三分の二以上おられ、家族と相談し足元センサーを使用している。ユニット間は廊下で一体となっているので両ユニットできめ細かく所在確認を行い安全確保に努めている。2か月に1回身体拘束委員会を開き、振り返りの時を持ち意識を高め取り組んでいる。	

グループホーム愛ランドまめじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待とは何かしっかり理解している。身体的な虐待はもちろん、言葉や態度での虐待はないか、互いに注意して仕事をしている。それ以上の事は虐待に繋がりがかねないといった場面があった時はカンファレンスで話し合い職員間で共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に研修を受けているが、現在対象者はおらず、必要になった場合には皆で学びたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書・運営規定の全項目を家族とともに確認し、質問などに答え、理解・納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回、その月の様子が分かる写真をプリントし手紙で日々の様子をお知らせしている。面会時には口頭で普段の用紙を伝え、家族の意向なども聞いている。 昨年より年1回のご家族との懇談会を開催している。	職員の問い掛けに対し殆どの利用者は意思表示の出来る状況であり、近くに寄り添い思いを受け止め支援に取り組んでいる。家族の来訪は平均すると週1回～月1回位であり、毎日来られる方もいる。来訪の際には利用者の日々の様子を細かく話している。また、年1回、9月に敬老会を兼ね家族懇談会を開催し1年間の活動報告を行い、ボランティアの出し物を楽しみ、食事を共にし利用者の食事の様子を見ていただいている。更に、月1回、写真入りの個人別お便りを管理者とリーダーが作成し家族にお届けし喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の中で職員が意見や要望を言いやすい環境作りを心掛けている。月1回のミーティング時に出た意見や要望には可能な限りこたえるように努力している。 半年に1回は個別面談を実施している。	日頃より話のし易い環境づくりに心掛け取り組んでいる。月1回、職員ミーティングを行い、連絡事項、事故・ヒヤリハットなどを報告し、ユニット毎に分かれ利用者個々のカンファレンス等を行い支援の向上に繋げている。また、法人としてキャリアパス制度を導入しており、自己目標を立て半年に1回自己評価の後、代表者、管理者による個人面談も行われ振り返りの時を持ち、スキルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のライフスタイルに合わせた働き方で勤務できるように配慮している。キャリアパスの導入を始めてから個別にレベルに合わせた目標を立て仕事をしている。目標を達成できた時はしっかり評価する。特定処遇改善の申請もした。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は自分の介護力を過信する事なく、自分本位にならないように、他の職員の方法を聞いて意見交換したり、リーダーの指導を受けスキルを上げる努力をしている。また社内研修や社外研修に参加できるようにサポートしている。		

グループホーム愛ランドまめじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内や関連施設などに相互に応援体制をとって情報交換の機会があり、研修生の受け入れもしており、更なるサービスの向上を目指している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたり、ご本人の思いに向き合い、新しい環境や職員を受け入れ、安心していただけるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事や求めている事を理解し、渡井たちはどのように支援していくか具体的にお話し、信頼して任せいただけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学の際、ご本人とご家族が必要としている支援を把握し、グループホームの特色や当施設の理念を説明したうえで、その方が暮らしやすい環境はどこなのか一緒に考えたり助言したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者に教えていただく事は多く、互いに足りないところを補いあえるような関係作りができています。 職員、利用者の枠では無く、人と人のつながりを大切に考え、お互いに相談しあえるような信頼関係を築けている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には入居時に「ご家族の絆は何物にもかえがたい。私たちでは代わることはできません。」とお話し、ご家族にしかできない支援があり、いつまでも絆を持ち続けご本人を支えていただくためのご協力をお願いし、普段の生活は安心してお任せいただきたいとお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に行ったり子供の家に行ったりする方は少ないが、家族や知人が訪ねてきたり電話が来た時などはゆっくりおしゃべりを楽しんでいただいている。 施設では行事で、元気な頃は良く行っていただく場所に出掛けたりしている。	親戚やお孫さんの来訪があり居室で寛がれている。ホームの電話を使い家族に掛ける利用者も数名いる。須坂の人形博物館「千人雛」見学の際に撮影した利用者個々のポストカードをハガキにして家族にお出しする予定がある。合わせて年末には個々の「ぬり絵」を年賀状にし家族にお届けする準備も進めている。また、馴染みの近くのスーパーまで交代で食材の買い出しにも出掛け外の空気に触れている。	

グループホーム愛ランドまめじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性を把握し、職員が見守ったり会話の間に入ったりし、利用者間でトラブルがおこらないように、楽しく過ごしていただけるように配慮している。利用者同士、不安や心配事を話し、励まし合っている姿もみられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの関係性を大切にし、その後のご本人の様子を知らして下さるご家族がいたり、ご本人に会いにいかせていただいたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ご本人の望んでいる事を把握するように努めている。また言葉や行動から見て取れる真意は何なのか話し合い検討している。ご本人の意向も変化するので、その都度検討し意向に沿うようにしている。	利用者とのコミュニケーションを大切に感謝の気持ちを常に持ち、真剣に向き合い、希望に沿ったケアに取り組むようにしている。言葉を通して向き合えない方も数名いるが表情を見て近くに寄り添い、思いを伝え、また、利用者の思いも推測し意向に沿えるよう取り組んでいる。日々の気づいた言動等は個別ケース記録に纏め、出勤時に合わせ確認し、また、口頭でも伝え合い、情報を共有し支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人とご家族に面談した時に、生活歴や生活環境を把握するようにつとめている。これまでのサービス利用の状況なども把握し、アセスメントはセンター方式の一部を用いて把握している。生活していく中で必要に応じてご家族へ聞き取りをし情報を増やして行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの1日の過ごし方が決まっていて、ご利用者1人1人の有する能力を見極め、できる事を行っていただいている。ゆっくり過ごせる時間も、心身状態やその日の気分や体調も把握し、臨機応変に対応させていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活や関わりの中でご本人、ご家族の意向を聞いたり、気持ちをくみとりご本人がより良い状態で暮らしていく為に、課題がでた時は月に1回のカンファレンスで検討している。ご利用者1人1人に担当の職員を決め、計画作成担当者と中心になり、モニタリング・アセスメントを行っている。	職員は1~2名の利用者を担当し、利用者個々の気づき、居室管理、プラン作成時に管理者と共にモニタリングをしている。カンファレンスでも職員が意見を出し合いモニタリングを行い、本人や家族の希望も取り入れ、利用者にあったプランを作成している。入居当初は1~3ヶ月で見直しを行い、その後は6ヶ月毎の見直しとし、状態が安定している場合は1年としている。状況に変化が見られた時には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に、ご利用者の発言を大切に考え、会話のやりとりや、どんな対応をしたかを、その場になくても状況が分かるような記録を心掛けている。またユニットごとに連絡ノートがあり、気づきや検討したいことを書き込み全員で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		

グループホーム愛ランドまめじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応していく柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者と近所のスーパーに行くときレジの方など気軽に挨拶できる関係性を作っていた。散髪も近くの理髪店が出張してきてくださっていて、理髪店の方とも顔なじみになり話もはずむようになっている。散歩に行くとき畑にいる方がリンゴをくださったり、限られてはいるものの地域で暮らしている実感を得られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居時にかかりつけ医をそのまま継続していただく事も可能だが、看取りを希望する場合は協力医に変更していただき対応して。協力医はいつでも相談にのってくださり、安心して生活を送る事ができるように支援している。	入居時、利用医療機関について希望をお聞きしているが、現在は全利用者ホーム協力医の月1回の往診で対応している。また、法人看護師の来訪が週1回あり、利用者の健康管理を行い医師との連携も回リオンコール対応となっている。歯科については必要に応じてホーム協力医の受診対応で基本的には家族に同行をお願いしている。薬の管理は管理者が1週間分の配薬を行い、合わせて夜勤者が1日分の配薬確認をし、投薬時2人の職員が確認を行うという3段階のチェック体制を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	日々の関わりの中でとらえた情報や、気づきで医療的な事柄については看護師に相談・報告し、ご利用者が適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、安心して治療ができるように、また早期に退院できるようにご家族とも良く話し合い、病院関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応の指針を書面で説明し理解を得ている。心身の状況に変化があればご家族に報告し、さらに具体的な話し合いの場を持ち意向の確認を行い、協力医との連携を強化し、当施設でできる事を説明し必要な時は終末期に向けたケアプランを作成していく。	重度化にに対するホームとしての指針があり利用契約時に説明をし同意を頂いている。状況に変化が生じ、終末期に到った時には、家族、医師、看護師、ホーム職員で話し合いの場を設け家族の意向を確認し、改めて看取り同意書にサインを頂き、医療行為を必要としない場合に限り、最期まで安心して過ごしていただくよう取り組んでいる。開設以来7名の看取りを行い家族からも感謝の言葉を頂いている。また、看取り後は職員で振り返りの機会を持ち、次回に繋げるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時にはマニュアルがあり、それに沿って対応している。応急手当や初期対応の研修もあり、同じ敷地内の施設にはAEDがある。		

グループホーム愛ランドまめじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地区の消防団や民生委員の方々に施設内の見学をしていただき建物の作りを把握していただき災害時には協力していただけるようお願いしている。 年2回の避難訓練も実施している。	年2回、春と秋に隣接する有料老人ホームと合同で防災訓練を行っている。利用者も全員参加で火災想定 の避難訓練、通報訓練を行い、夜間想定避難訓練では夜勤職員2人が全利用者を外へ避難させる訓練も行い、水害訓練では利用者を併設有料老人ホームの2階まで移動して訓練を実施している。今回の台風19号の災害時には当ホームに対しても避難指示が出た状況でもあり訓練内容の見直しを検討中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時でも、お手伝いさせていただくという気持ちで接し、さりげないケアを心がけている。全員同じケアではなく、その方に合った声掛けや方法でケアさせていただいている。	常に感謝の気持ちを持ち、させて頂いているという気持ちで利用者が嫌な気持ちにならないよう意識し取り組んでいる。入室時にはノックと声掛けを忘れないようにし、呼び方は本人や家族に確認し希望に合わせ、苗字、名前を「さん」付けでお呼びしている。接遇等の勉強会を必要に応じ開催し意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の要望は何なのか把握する努力をし、ご自分で選択できるような問いかけを心掛けている。その方の思いを大切に考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切に考え、それぞれに合わせた対応をしている。行っている事を妨げず見守り何をしたいのか、何を考えているのか、その方がしたいようにできるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は特に、ご本人と一緒に服を選びおしゃれをしていただいている。普段の整容は基本的にはご自分でされるが、足りないところはお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人好みを把握し嫌いな物や苦手なものは変更したり臨機応変に対応している。職員も一緒に食事をし、味付けや献立についておしゃべりをしたりしながら楽しく食事をしていただいている。 食事の準備などできる事は出来る方に行っているが、できない方が「自分は何もできなくて情けない」と言われるので、できない方がみじめな気持ちにならないように配慮している。	利用者の中で自力摂取の方は8割強おり、一部介助と全介助の方が若干名ずつという状況である。職員がその時々話題を提供し、話に花が咲き楽しい食事の時間を過ごし、完食されている方が多かった。献立は法人の管理栄養士が立て、副菜の調理は隣接有料老人ホームの厨房で調理し、「ご飯」「汁物」はホームのキッチンで作りお出ししている。お手伝いは出来る方にやっていただき、おやつ作りは全員で楽しんで行っている。また、月1回のイベント時には「寿司」「弁当」等を外から取り楽しんでいる。更に「回転ずし」「釜めし」等の外食に出掛けるのも楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量を把握し個別に量も調整している。 嚥下の状態や咀嚼の状態によって食事形態を変えている。安全に食事していただけるように支援している。		

グループホーム愛ランドまめじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしていただくように声掛けを行っている。ほとんどの方は自分で行えているが、側にいて声掛けが必要な方もいる。上手に、できない方はお手伝いさせていただいている。義歯を使用している方は就寝前に洗浄剤につけていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を使用し排泄パターンの把握に努めている。自らトイレに行かない方はできるだけ行動と行動の節目に自然な形でトイレに行っていたりするような声掛けを行い自立に向けた支援を心掛けている。	見守りも含め全利用者が何らかの介助が必要な状況であるが、トイレでの排泄に向けたケアに取り組んでいる。排泄表を用い個々のパターンに合わせトイレ誘導を行い、合わせて起床時、おやつ前後、食事前、就寝時に声掛けも行う排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、排便促進のため、食事やおやつ時の「お茶」の摂取に合わせ、牛乳、乳酸飲料等の乳製品の摂取にも心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養のバランスのとれた食事の提供と、水分補給をしていただき、適度の運動も行えるように配慮している。しかし便秘症の方は多く、整腸剤の調整を医師に相談した上でやっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や状況に合わせて週に2回入浴を行っている。希望があれば回数を変更できる。それぞれの方の希望に沿いゆっくり入浴していただいている。	全利用者が介助を必要としており、職員二人で介助する方も三分の一弱という状況である。毎日入浴を行っているが基本的には週2回の入浴で、希望があれば更に対応している。入浴拒否の強い方はいないが、その日の気分で日を変え入浴される方もいる。入浴剤は乳白色の物を毎日使用し、季節に合わせて「菖蒲湯」「ゆず湯」等も行い、楽しい入浴となるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活パターンを把握したり、24時間単位の睡眠のとり方を把握している。1人で部屋にいと眠れないが、ホールに来ると眠くなる方や、夜間は良く眠れず、昼間に眠くなる方もおり、原因を探る努力をしている。状況に応じた支援を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書をご利用者ごとにファイルし職員は把握している。服薬時はご本人に手渡し服薬確認を行っている。体調に変化が見られた場合には看護師や医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で個々の力が発揮できるように支援している。ご利用者が自分の仕事だと張り合いを持ってくださる。 外の空気は吸いたいけれど、筋力低下により戸外を歩行するのは不安だという利用者には車椅子に乗っていただき散歩に出掛け気分転換をしていただいている。それぞれの方に合わせて楽しい時間が過ごせるように努力している。		

グループホーム愛ランドまめじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時には散歩にお誘いする。リンゴの木が沢山あり、春から秋の成長を楽しみおしゃべりもはずむ。 ご家族には馴染みの場所に行ったり、人に会えるようお願いしている。 施設ではおなじみの善光寺、権堂アーケード、臥龍公園などに出掛けている。	外出時、自立歩行と杖・シルバーカー使用の方が数名おり、車イス使用の方が三分の二強となっている。天気の良い日にはホームの周りのリンゴ畑を見ながら散歩したり、玄関前のベンチに腰掛け外気浴を楽しんでいる。合わせてホーム全体が廊下で繋がれており、ユニット間を歩いて機能低下を防いでいる。また、恒例の夏まつりでは「金魚すくい」「ヨーヨー釣り」「屋台」等を家族の参加も頂き楽しんでいる。更に、春の「須坂の千人囃子」見学から秋の「菊花展」見学まで、毎年、6回の外出レクリエーションが行われ、外食も含め、楽しみの一つとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	にゆきよじお金を所持している利用者は少ないが、ご本人の希望により所持している利用者は一緒に買い物に行ったり、外出時お賽銭や小遣いを自分で持って行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自ら電話をしたり、受けた電話を代わってお話してもらったりしている。手紙のやり取りをしているご利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔で快適な居住環境整備を心掛けている。季節の花を飾ったり、季節に合わせた飾りつけををしたりしている。ホールと離れた場所にソファを2つ設置しており、それぞれ好みの場所にいる事ができる。	玄関を入ると正面に代表者、管理者を初めとした全職員の支援に取り組む意気込みと顔写真が紹介されている。廊下の壁にはイベント、外出等の様子の写真が壁一杯に貼られ、ホームの積極的な活動の様子が窺える。そんな中、職員と共に賑やかにゲームを楽しむ利用者の姿を見ることが出来た。開設から10年を迎えた当ホームであるが、清掃が行き届き匂いもなく、清潔感が漂っており、そうした中で利用者が穏やかな日々を送っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	洗面所やトイレを使用した後に一休みしたり、気の合う方と連れだって座りおしゃべりしたりできる場所にソファを設置してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室はご本人の使い慣れたものや馴染みのある物を置いたりしていただくようにご家族にはお願いしている。 テレビを持ち込んでいるご利用者は好きな時間に好きな番組を自由に観ている。	各居室には大きなクローゼットが備え付けられ整理整頓が行き届き綺麗な中で生活している。利用者一人ひとり、思い思いの生活空間が作られ、使い慣れた家具、物入れ、テーブル、イス、テレビ等でレイアウトし、家族の写真や仏壇等も持ち込まれている方もおり、壁には職員から送られた誕生日や敬老会のお祝いの色紙等も飾られ、自由な日々を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や、ご自分の部屋が分かりやすいように張り紙をしている。安全に生活ができるように物の配置や環境整備に配慮している。		